

5年 社会

自動車をつくる工業

番組名 「社会のトビラ」

放送回 第10回「これからの自動車」

実践者 港区立高輪台小学校 教諭 田端 芳恵

日本を支える様々な産業を「過去」現在「未来」という視点で見ていくことで、より深く理解できることを目指した番組です。様々な仕事で働く人々の姿や思いを通して日本の社会を知ることができます。

番組の使い方

活用のねらい

番組視聴によって、これからの車づくりの大きなテーマが「無事故」「温暖化」「リサイクル」であることをとらえ、そうしたテーマにかかわる自分なりの「問題」がもてるようにする。さらに、自分の「問題」を既習内容や番組以外の情報も活用して追究しようとする意欲をもつことができる。

具体的な手立て

番組視聴と既習学習から自分の問題をもつ
学習のスタートで番組を視聴する。視聴後は個々のとらえを大切に、人や環境にやさしい車づくりがどのように行われているかについて、これまでの学びと合わせて自分の問題をもつ。
多様な情報を利用して問題解決に取り組む
問題解決の際には、クリップや図書資料、インタビューや聞き取りなどの多様な資料を活用して主体的に調べる。さらに、必要に応じて番組の再視聴（個別視聴）を行う。

授業の概要（11/24）

本時の目標

人や環境にやさしい自動車づくりには、どんな工夫や努力が大切なのか考え、自分なりに提案することができる。

番組視聴（10分）

- ・見やすい位置へ自由に移動して視聴
- ・メモはとらない。
- ・リラックスして視聴する。

番組を見て、考えたことやさらに調べてみたいことをワークシートに整理することで、自分の問題をもつ。

自分の問題解決に向けて、クリップ、教科書、資料集等を活用し、情報を収集する。

集めた情報をもとに、人や環境にやさしい未来の車づくりについて分かったことや考えたことをまとめる。

それぞれの考えを発表し交流することで、人や環境にやさしい車づくりの視点をまとめ共有する。

授業の振り返り

車づくりをはじめとする工業生産は、わたしたちの生活と密接に結び付いていることをとらえ、新たに調べたいことを考える。

生き生きと学ぶ子どもの姿

視聴からこれからの車づくりを考える子ども

安全な自動車、環境にやさしい自動車が実現されるまでには、多くの人びとの努力と時間が必要であったことに番組視聴を通して気付いたことで、自分が大人になった時の車を自分なりにイメージして提案した。その車は、電気だけで長く走るだけでなく、だれでも安全に走れる自動車であった。

クリップや資料集を活用し、意欲的に追究する子ども

クリップや資料集・教科書を活用して調べる場面では、自分の「問題」について、関連するクリップを視聴したりキーワードを考えて必要な情報を見つけ出したりしていた。

すすんで学び合う子ども

これからの車づくりを発表する場では、自分のイメージを友達にしっかりと伝えるために、絵図等を用いながら説明をし、提案を分かりやすく伝えようとする姿が見られた。

指導を終えて

我が国の産業が自分たちの生活と深く結び付いていることを、「社会のトビラ」を継続して視聴し、そこに従事する人々の営みや思いに触れることで、すすんでリサイクルに取り組んだり、毎日の食を大切にしたりしようとするなど、実感的に捉える姿が見られるようになった。さらに、社会科学習のねらいである「社会に参画する態度」が向上する姿が見られ、社会科を楽しみながら学ぶ姿につながった。そうしたことから自分の問題を自分の力で追究しようとする子どもたちの主体的な学びが広がった。

